

Style Sheet (2025)

1. 原稿は横書きとし、Microsoft Word で作成されたものとする。
2. 原稿は A4 判の用紙を使って 40 字×35 行に印字したものを提出すること。
3. 原則として用いる字体は MS 明朝で、フォントの大きさは 10.5 とする。英数字は半角文字とする。
4. 全体の体裁
 - 四方余白 2.54cm
 - 左右のマージンは両端揃え（右マージンはハイフン付き両端揃えを使用）。
 - ヘッダーとフッター（1.25cm）注は脚注とする。
5. ヘッダー「AGLOS: Journal of Area-Based Global Studies」（Lucida Sans, 8.5pt）
フッター：Author's name（Lucida Sans, 8.5pt）
6. 原稿は、タイトル（中央そろえ、16pt, MS 明朝）、名前（中央、16pt）、アブスト/キーワード（11pt）、引用文献、英語要旨の順序で構成すること。英語要旨は、表題、氏名、所属・略歴、要旨、4～10 語のキーワードを順に記すこと。
7. 本文（両端揃え、11pt）
 - 大見出し（三行開け、14pt, 左寄せ、太字）
 - 小見出し（一行開け、12pt, 左寄せ、太字）
 - 脚注（日本語 10pt）
 - ブロック引用符（上下に 1 行空ける）
8. 注は脚注とする。

9. ページ番号 (Calibri 11 pt フォント; 数字は左右交互に配置 (1 ページ目は右下隅、2 ページ目は左下隅など))
10. 印刷の書式は編集委員会の定めるものとし、原則として著者による責任校正は1回だけ行う。
11. 原則として図表は本文とは別ファイルで提出すること。また、各図表を配置する場所については、本文中に示すこと。(例)「図1 この辺り」
12. 著作権で保護された内容を投稿論文で使用する場合は、著者が責任を持って著作権者からの許諾を得ること。
13. 引用文献の参照の仕方および文献リストの記述方法は、以下に従うこと

日本語文献

【単著の本】

本文中) (安田 1971)、(安田 1971, 35)

参考文献) 安田三郎. 1971. 『社会移動の研究』 東京大学出版会

- ・ ピリオド (.) とカンマ(,)は半角。また、文末を除き各ピリオド、カンマの後ろには半角スペースを入れる (以下の全ての例も同様)。
- ・ 著者が多い場合 (一般に 3 名以上) は「第一著者他」としてもよい。

【共著の本】

原純輔・盛山和夫. 1998. 『社会階層 -豊かさの中の不平等-』 東京大学出版会。

【編集本】

土場学他 (編) . 2004. 『社会をくモデル>でみる -数理社会学への招待-』 勁草書房。

高坂健次 (編) . 2000. 『階層社会から新しい市民社会へ 日本の階層システム 6』 東京大学出版会。

- ・ 編者が多い場合 (一般に 3 名以上) は「第一編者他」としてもよい。
- ・ シリーズ本の場合は上の例のように『(1)その本の題名、(2)シリーズ名』のように書く。

【単行本所収の論文】

浜田宏. 2004. 「相対的剥奪の生成 -マートン準拠集団論の精緻化」 三隅一人 (編)『社会学の古典理論』 勁草書房: 149-72.

- ・ 単行本所収論文の場合でも“『○○』所収”ではなく、ページ数を記載する。
- ・ ページ数が 3 桁以上で、百の位以降の桁数が変化しない場合は、その部分を省略すること。

例 1) ○123-34, ×123-134.

例 2) ○198-215 (百の位が変化する場合のみ明記)

例 3) ○1134-47, ×1134-1147, ×1134-147

【雑誌論文】

辻竜平・針原素子. 2003. 「『小さな世界』における信頼関係と社会秩序」 『理論と方法』 18(1):15-31.

吉川徹. 2003. 「計量的モノグラフと数理-計量社会学の距離」 『社会学評論』 53(4): 485-98.

外国語文献

Chicago Manual of Style に従うこと。